

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：12606

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2016

課題番号：15K16661

研究課題名(和文) 環境における表現の可能性-グローバル時代における作品テーマ及び表現の展開-

研究課題名(英文) "Possibility of the expression in the environment"-Development of work theme and expression in the global era-

研究代表者

臼井 英之(Hideyuki, Usui)

東京藝術大学・大学院美術研究科・専門研究員

研究者番号：70644574

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：【世界のアートシーンから世界を知る】

2015年には、100年以上の歴史を持つベネチア・ビエンナーレ、2016年にはイギリス最大級の芸術祭であるリバプール・ビエンナーレの視察、アントニー・ゴームリー氏のアトリエ見学を行った。これらの世界的な美術展には様々な国の表現が一同に集結する。国際美術展の現地視察をベースとしたリサーチは、世界の作家が何を考え、表現しているのかを、自分の目で確認することで、自分の表現の立ち位置を知り、日本人アーティストとして世界に発信していくために、重要な基盤になるものだと考えた。これらの経験は自己の制作に繋がる有意義なものとなった。

研究成果の概要(英文)：【Know the world from the world art scene】

In 2015, the Venice Biennale with a history of more than 100 years, the observation of the Liverpool Biennale, the largest art festival in the UK in 2016, and the tour of the studio of Antony Gormley. Representations of various countries are gathered together in these global art exhibitions. Research based on the field visit of the international art exhibition knows what the world artist thinks and expresses, what he thinks and expresses by my eyes, knowing the position where my expression stands, as a Japanese artist I thought that it would be an important foundation to disseminate it to the world. These experiences became meaningful which leads to my creation.

研究分野：芸術表現

キーワード：環境芸術 グローバル

1. 研究開始当初の背景

現代における欧米の美術表現は、日本のそれと比べ政治や宗教と密接であり、メッセージ性の強い作品が多い。その背景には、不安定な社会情勢や、「暴力」が身近に存在するといった状況がある。私はこれまで、自然現象を模倣しながらも、自然の美しさを愛でる作品を展開してきた。作品に強烈なメッセージを込めないこと自体は、間違っただけではないと考えている。裏を返せばそれだけ日本が平和を維持してきた、自然の恩恵に授かっているということがわかる。

しかし、日本人だけが世界情勢から目をそらしてよいはずはなく、他国が抱える問題を他人事のように捉えていては、世界は負の連鎖を繰り返すのみである。グローバルな視点で自分の作品を見ると、作品の持つ社会的なメッセージ性は弱い。これは私に限った事ではなく、多くの日本の美術作家に共通することだとも言える。



ベネチアビエンナーレ
(弾薬や砲弾をモチーフとした作品)

研究開始当初私は、文化庁・東京藝術大学が主催する「平成 26 年度新進芸術家育成事業」に新進芸術家として参加していた。その中のプログラムにおいて、世界的に活躍するアーティストのアルフレッド・ジャー氏による、少人数制セミナーが開催された。私は彼との出会いにより、元来の研究テーマである「環境における表現の可能性(平成 25 年度～平成 26 年度若手研究 B) 課題番号 25770060」を土台としながらも、表現のテーマを世界が抱える諸問題にフォーカスさせ、問題に対する新たな思考モデルを提示するとともに、花鳥風月に通じる、自然環境と向き合う奥ゆかしい繊細な造形表現を、日本人として積極的に世界に発信していくことの責務を感じた。

2. 研究の目的

世界を取り巻く情勢は日々変化し、本格的なグローバル時代が到来している。現代美術は、欧米的手法がその主流にあり、欧米では、日本の作家に比べ、政治的なテーマ、アイデンティティに関わることなど社会的メッセ

ージの強い作品が多い傾向にある。グローバル時代においては、たとえ難解な表現であっても、それを読み解き、世界が抱える問題を共有しなければならない。

まずは正しく世界を「知る」こと。その上で、作品を通して社会への問題提起を行い、更に日本人ならではの視点及び美意識で、「環境」における表現の可能性を追求することが、本研究の目的である。



ベネチアビエンナーレパンフレットより
「ALL THE WORLD'S FUTURES」

3. 研究の方法

平成 27 年度

2015 年には、100 年以上の歴史を持つベネチア・ビエンナーレの視察を行った。この世界的な美術展には様々な国の表現が一同に集結する。国際美術展の現地視察をベースとしたリサーチは、世界の作家が何を考え、表現しているのかを、自分の目で確認することで、自分の表現の立ち位置を知り、日本人アーティストとして世界に発信していくために、重要な基盤になるものだと考えた。具体的には下記の要領でリサーチ及び視察を行った。

(1) 事前リサーチ

現地視察に入る前に、出品作家の作品コンセプトや各国の社会背景、宗教観等を、文献や海外のメディア情報等でリサーチした。

(2) 現地視察

2015 (平成 27) 年には、第 56 回ベネチア・ビエンナーレ、2016 (平成 28) 年には、第 9 回リバプール・ビエンナーレの視察を行った。その際、作家のコンセプトを読むことに重きを置くとともに、欧米と日本の表現方法の違いを比較、確認した。

(3) 帰国後リサーチ

帰国後、知人のキュレーターにも協力を仰ぎながら、作家の思考、社会背景を読み解き、アートから世界の動向を明確に把握することに努めた。

平成 28 年度

【世界のアートシーンから世界を知る】

イギリス最大級の芸術祭であるリバプール・ビエンナーレの視察を行った。前年度同様の段階別のステップでリサーチを行った。また、滞在中ロンドンにて現代美術の第一線で活躍されるアントニー・ゴームリー氏のアトリエを訪問する機会を得ることができた。



「Another Place」Antony Gormley

この貴重な体験は、制作現場の雰囲気はもとより、彼の制作における思考プロセス、集団制作による効率的な制作技法、またアートギャラリーでのコンスタントな作品の展開方法などを直に知ることができる有意義な時間となった。

【制作に関して】

私は自然環境を土台に水と空気を利用したスケールの大きい制作を行ってきたが、本年度は元来の研究ノウハウを生かし小作品の制作から新たな表現と技術を模索することにした。小作品は短期間に複数の実験と検証が可能のため効率的な研究を進めることが可能だと考え、この研究方法を選択した。

4. 研究成果

平成 27 年度

- (1) 「作品コンセプトの明確化」
- (2) 「制作ノウハウの向上」、
- (3) 「間接的能力の向上」の3つを念頭に研究に取り組んだ。

- (1) ベネチア・ビエンナーレ 2015 現地視察
アートを通して世界が抱える問題を共有し、正しく世界を「知る」ことを目的とし、視察を行った。キュレーターを始め、第3国の作家の活動が目立つ展示であった。テーマとしては、資本主義への警鐘を目的としているものや宗教を扱ったものが多い印象を受けた。

国際展の現地視察により、グローバルな視点の重要性を再確認することができ、また今後の自身の作品コンセプトを明確にすることができた。



ベネチアビエンナーレよりビデオインスタレーションが、表現手法の大半であるような印象を受けた。

- (2) 水田環境を利用した実験

前年度に行った福島県にある水田環境を利用した実験を再度試みた。具体的には作品装置を土中に沈め、空気を出現させるものである。土木技術の重要性も明確になり、海洋設置とは異なるノウハウを得ることができた有意義な実験となった。

- (3) 英語力の向上及び制作に必要とされる資格取得

英語力の向上を図るため英語教材スピードラーニングの受講、英語による ART 情報誌 Flash Art の定期購読を行った。また、制作時に必要となる第2種電気工事士の資格取得を目指し、一次試験の合格を果たした。

平成 28 年度

□視察を通して

リバプール・ビエンナーレの視察で訪れた

ヨーロッパの街には、創作のヒントになるものが随所に存在した。特に、様々な人種が交差する空港や街にあるお土産屋で、各国を代表するアイテムに目が留まった。イギリスの街では、赤い電話ボックスやロンドンバスなどが目に付いた。これらのアイテム＝「世界のアイコン」の大衆化されたヴィジュアルは、一目でその国を連想させる要素を持ち、これらのアイコンを自身の作品のモチーフとして用いることで、どの世界の人にも作品のメッセージを効果的に伝え、様々な表現を展開していくことが可能であると考えた。



「44」模型 / 臼井英之
(電話ボックス下部からあぶくが出現する)

□作品に関して

世界の抱える諸問題に目を向けつつも、欧米諸国の作家のように、作品そのものに直接的に強烈なメッセージを込めるのではなく、日本人ならではの感覚・美意識で、エスプリの効いた造形表現を発信していくことに、改めて価値を感じた。

具体的には、モチーフとして「世界のアイコン」を用い、素材として「水と空気」を使用することで、「水と空気で世界を繋ぐ」という新しいテーマで作品を展開するという着想に至り、数点を制作した。



「ししおどし」臼井英之
(水中からあぶくが出現し、竹筒が動く)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

環境芸術学会第17回大会

2016年11月12日(土)～11月13日(日)

女子美術大学相模原キャンパス

臼井英之 / 作品発表及び口頭発表

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

臼井英之ウェブサイト www.usuiusu.com

6．研究組織

(1)研究代表者

臼井 英之 (Hideyuki USUI)

東京藝術大学大学院美術研究科

大学院専門研究員

研究者番号：70644574

(2)研究分担者

なし

研究者番号：なし

(3)連携研究者

なし

研究者番号：なし

(4)研究協力者

なし